

データサイエンスは 平和の実現に どのように貢献できるか？

ビッグデータや AI という最新のデータサイエンスの技術は社会科学の様々な分野に取り入れられ、研究の精度の向上に重要な役割を演じています。こうした学問的取組は、公的機関や企業などが実施する「証拠をもとにした政策決定」(EBPM: Evidence-based Policy Making) を支援し、政策立案や実施の向上に貢献することも期待されています。

今回のサイエンスカフェは、高校生・大学生・大学院生を対象に開催し、データサイエンスの技術を活用することで国際政治の謎を解明し、平和の実現に寄与する方法について、2名の若手研究者を招聘し、デモンストレーションを交えた講演を通じて、研究の面白さや社会実装を参加者に実感してもらうことを目指します。



主催 / 日本学術会議

共催 / 大阪公立大学

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A
「分断する国際政治における国際協調と
ガバナンスの政治経済分析」

参加費無料

日時

令和 8 年

9.19(土)

14:00-16:00 (開場 13:30)

※定員 60 名 (事前申込不要)

場所

大阪公立大学森之宮キャンパス
SMBC スカイラウンジ (12F)

司会

伊藤 岳

大阪公立大学大学院経済学研究科准教授

挨拶

鈴木 基史

日本学術会議会員 / 京都大学名誉教授

講演

石田 早帆子

早稲田大学現代政治経済学研究所特別研究員
「人道危機のデータ科学」

柏原 晴希

早稲田大学平和科学研究所研究員
「表情で科学する国際政治」

座談会

登壇者と参加者を交えて (小グループ編成)
「研究者って、どんなひと？」

お問い合わせ先



z26740q@omu.ac.jp

担当 / 梶下 佳成 (大阪公立大学大学院経済学研究科)